

29【P1】Ⅱ-006

漢方薬選択支援システムの開発研究(その3. 漢方薬・生薬データベースの構築)
宮崎 剛¹, 馮 春来¹, 〇寺田 幸正¹(¹名城大薬)

【目的】現在開発中の漢方薬処方選択支援システムにおいて、最終的な処方を選択されるものの、その処方がどういった目的で使用されているかの説明がない。また、現場において漢方薬に深い知識をもつ医療関係者が少ないことも現状である。そこで、処方についての解説や内容などを有し、必要な情報を直ちに取得できる、漢方薬・生薬データベースを開発することとした。

【方法】データベースを Access によって製作し、その接続手段として ADO を利用した。言語は VBA を使用し、Access 上で複数のフォームを製作してプロトタイプとした。プロトタイプは、各データベース編集機能と総合検索機能を持つ。データベースは、漢方薬、生薬、証、証解説の4種のテーブルに分けられている。

【結果および考察】各データベースの編集機能をフォーム形式で用意したことによりエンドユーザーによる新規データの入力作業も可能となり、また VBA を用いていることから将来的に別言語 (C や JAVA など) による独立したアプリケーションへの改良をより容易に行えるようにした。同様に、検索システムも目的とするテーブル別と現場向けの検索方法を用意し、現時点でも活用が可能な状態に出来ている。現在入力されているデータは、医療用漢方製剤 146 処方のうち、128 処方 (ツムラ社の医療用漢方製剤すべて) であり、現状で使用されている漢方薬のほぼすべてを網羅している。生薬についてもこれらの処方に、含有するものすべてのデータが入力されている。

今後は、本来の目的である処方支援プログラムとの結合によって、ひとつの大型診断システムに成り変わるであろう。そのためにも、データの信憑性を慎重に検討する必要もある。